

(様式第4号)

## 上田市行財政改革推進委員会 会議概要

1	審議会名	上田市行財政改革推進委員会 (第3回 情報プラザ部会)
2	日 時	平成20年7月8日(火) 午後2時から4時14分まで
3	会 場	上田市役所 南庁舎5階 第3、4会議室
4	出席者	小池会長、三井部会長、森田副部会長、鬼頭委員、斉藤委員、田口委員、 【欠席】小宮山委員、武井委員
5	市側出席者	金子行政改革推進室長、鎌原係長、星野主査、平田主任
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成20年7月22日

### 協議事項等

#### 1 開 会

(部会長) 本日が最後の部会となる。

正副部会長で答申の原案を作成したので、次回の本会に提出できるよう皆さんでご審議  
いただきたい。

#### 2 議事

##### (1) 前回の会議録の確認について

(事務局) 前回の会議録についてはホームページで公開するので、訂正があれば事務局に申し出て  
いただきたい。

##### (2) 「情報プラザ」の仕組みづくりについての検討

(部会長) 答申書の案については、正副部会長で協議して作成した。

集中改革プランについて諮問を受け、なぜ計画どおりに進まないか、また障害があると  
すればそれを除去しなければならないということで担当課とのヒアリング等を行った。

その結果、資源という面から見ると、担当課において人手が足りないという中で日々の  
業務に追われてなかなか事業に集中できない。また、機能・体制という面から見ると庁内  
横断的に調整する組織・機能がないという印象を受けた。

また、上司から適切な指示や必要な支援がなかったのではないかという気がする。

さらに、行政情報の集約化という点では、広範囲にわたり、どこから手をつけていいの  
か分からなかったのでは。

新たな仕組みづくりをするためには試行錯誤して取り組むことが必要だが、「正解のない  
選択への不安」を抱え検討を進められなかったことが取り組みが遅れた原因と考える。

(会 長) 情報プラザという概念の捉え方が人によって異なる。

情報プラザはイメージであることから、「情報プラザ構想」(情報広場)としてタイトル  
に入れた方がいい。

また、なぜこうした答申をするのかということを確認するために、集中改革プランと  
しての取り組みが遅れた原因も答申に入れるべきでは。

(部会長) 事務局としてはどう考えるか。

(事務局) 原因を明確にして、こうした方がいいというふうに提言してもらった方が担当課として  
は分かりやすい。

(部会長) 集中改革プランの他の項目でも同じような状況があるのでは。そうした原因を明確にす  
ることで他の取り組みへの刺激にもなる。

(会 長) 担当課が言うと孤立化してしまうが、外部から言うことで進みやすくなる面がある。

(部会長) どこまで言った方がいいのか迷う面はある。

- (会 長) 市の外部機関として言った方がいい。
- (委 員) 情報プラザの仕組みづくりを進めるためには、情報プラザの位置づけを明確にすることが必要。  
そのため、情報プラザは特定の場所やエリアではなく、情報の流通を行うための仕組みづくりのイメージと位置づけ、目的やコンセプト、進め方まで含めた答申案となっている。
- (会 長) 情報プラザの概念を明確にできなかったこと、横断的に調整する組織体制がなかったこと、「正解のない選択への不安」として着手できなかったことが、集中改革プランが計画どおりに進捗しなかった原因であることを答申で指摘し、提言した方が分かりやすいのでは。
- (事務局) 今の3つの観点について正副部会長と協議して答申案に入れる。
- (部会長) 情報プラザでは行政情報とともに地域情報を取り扱うが、地域情報についての概念が分かりにくいので、地域コミュニティを形成する自治会や団体などが発信する情報と定義した。
- (会 長) 広報うえだを見ると地域情報が多い。
- (部会長) 広報はお知らせという面が強い。情報プラザは市民にとって重要な情報を整理して分かりやすく伝えるもの。
- (会 長) 目的の中に情報化アンケートの結果などバックグラウンドを入れると分かりやすくなる。
- (委 員) 「行政と市民の距離を縮め」という表現が分かりにくい。
- (委 員) 広報うえだや公式ホームページには情報が満載されているが、情報を探しやすく整理し、必要な情報を必要な人に伝えることが「行政と市民の距離を縮め」ということだと考える。
- (部会長) 合併により行政区が広がったために隅々まで目が届きにくくなった。  
そうしたことを解消するために、行政として地域情報を積極的に発信することが市民との距離を縮めることだと考える。
- (委 員) 「行政と市民が一体となり」ではどうか。
- (委 員) うるおいのある地域をつくる仕組みというコンセプトの中に「地域らしさが失われないように」という言葉を入れて欲しい。
- (事務局) ネガティブな表現ではなく、「地域らしさを発揮できる」というようにポジティブな表現の方がよいのでは。
- (部会長) 国の方では、隣近所で何をやっているのかわからないという地域の問題を情報の伝達によって変えようという考えがある。
- (事務局) 正副部会長と事務局で相談して調整したい。
- (会 長) 「専用チャンネル」という言葉は認知されているのか。
- (事務局) まだ認知されていないので、もう少し分かりやすく工夫して記載する。
- (会 長) 行政が全ての情報を発信するのでは一方通行になるので、情報を発信したいという市民や団体のニーズを活用する受け皿づくりについても推進体制の中に記載すべきでは。
- (委 員) 結論を表題に、それを説明する内容は箇条書きにした方が分かりやすい。
- (委 員) 推進体制について、「部長クラスをリーダーとする推進母体」をつくった場合、逆に時間がかかるのでは。
- (部会長) 関係課との調整を図るためには責任と権限を持った人がリーダーになるべきと考えた。
- (会 長) そうした組織をつくるために時間がかかり、またうまく機能しないのでは。
- (部会長) 庁内横断的に進められなかったのは組織の壁があったからと考えた。
- (委 員) 秘書課をリーダーとして明記すべきでは。
- (会 長) 庁内横断的に進める必要はあるが、プロジェクトチームの設置ありきではなく、検討を進める上で必要があったら設置する方がいい。  
留意点において、「民間活力導入を検討した上で実現」という表現ではやらない可能性もある。「民間活力導入を積極的に導入」とすべき。

(委員) 推進体制については、リーダーとしての部長を指名すれば自然とプロジェクトチームができるのは。

(会長) 市役所では予算は部ごとにではなく課ごとに配当される。

秘書課と情報推進課を核として庁内横断的な責任体制という表現にすればいい。

広報のノウハウを持つ秘書課と情報化についてのノウハウを持つ情報推進課が共同責任で進めた方がやりやすい。

(事務局) 事務局と正副部会長で協議して訂正し、委員の皆さんに配布した上でご意見を伺いたい。

### 3 次回の日程について

(事務局) 次回の委員会では、それぞれの部会の答申案を持ち合った上でご議論いただきたい。

#### ・第4回行政改革推進委員会

7月25日(金) 午前9時30分から 武石地域自治センター 2階 第1会議室

\* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。

\* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。